

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173000233		
法人名	有限会社 クレインサービス		
事業所名	グループホーム ふれあい・ふらの 1階 すみれ		
所在地	富良野市北の峰町17番10号		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0173000233-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・整形外科医院の院長がかかりつけ医ということもあり、医療的な面での対応が充実しています。また、病院とも連携しリハビリを積極的に行える環境があります。
- ・土地柄も良く自然あふれる木々もたくさんあり、地域の方々のご協力やご理解があり、地域の一人として生活して頂ける環境が整っています。設備として、普通乗用車とリフト付きハイエースも完備していますので、大勢での外出など行っています。
- ・職員間の関係も良好で10代～60代の職員が毎日元気に働いています。また、病院にて年2回、腰痛検査も行っており職員の健康面のフォローも充実しています。
- ・平成21年11月スプリンクラ―設備完了
- ・平成22年6月浴槽拡張工事を機に特殊浴槽を導入

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は世界的な観光地、富良野スキー場のゲレンデに接するように建てられて、近隣の建物は観光事業関係も多く、外国人の増加も観光から定住へといった流動的要素もあり、古さと新しさが混在する地域環境下にある。自然豊かな中に建つ事業所は2階建てで、各階でユニットが事業を展開している。この事業所の優れている点は、促しも誘導も引率もしない自由で気楽な湯浴み、入浴支援の取り組みを第一番目に挙げたい。具体的には、浴槽には日曜と夜間、朝を除いてお湯を張り、入浴する人の指名や指定、順番等の制約をせずに、だれでも、いつでも、何度でも掲げて入浴支援に取り組み、かつ週に2回以上は全員を漏れることなく入浴させる、という利用者の自由な選択・意向の尊重と、衛生面での配慮を同時に実行している事に注目し高く評価したい。少人数での介護は、人手不足を作業的な要素で解決するのが常であるが、当事業所はチームワークでの介護と利用者の自主性を最重点として手間暇を惜しまない支援に取り組んでいる。また入浴支援のみならず、外出支援についても積極的に推し進めており、利用者本位を貫いている当事業所に、今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	◎ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	◎ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場がある (参考項目:18,38)	◎ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	◎ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	◎ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	◎ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	◎ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	◎ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	◎ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	◎ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	◎ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	◎ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	◎ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット入口・スタッフルームに理念を掲示して常にスタッフが共通認識を持ってケアを実践できるよう努めている。	「心穏やかに、ありのままに、その人らしく生活を送れる事を保障します」のホーム理念を掲示し、またお便りに記載するなど、内外に示しながら実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域主催行事の運動会・ビールパーティなどに招待され参加させて頂いている。当事業所が主催する夏祭りなどに地域の方々/事業所を招待するなどの交流をはかっている。	地域は代替わりや外国人の進出等、流動的な状況も切迫しているが、地域での行事に参加し、また当事業所も地域住民には認知症の啓蒙等に努めており、自分たちの出来る交流に積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援方法を地域行事への参加・交流により深めている。認知症の人の理解や支援方法についての質問が運営推進会議などでよくあり、話し合いを行っている。また、認知症に関わる事であればいつでも相談や質問をして下さいと伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度管理者・スタッフが運営推進会議にてホームの状況を御報告している。	行政や地域代表の参加により定期開催を続け、議事内容も行事報告やヒヤリハット、事故報告に及んでおり、開かれた事業として、また地域に不可欠な介護基幹として存在感を示している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1度ほど地域ケア会議に参加している。富良野市への報告書類は随時直接持参して提出し意見を求めるなど協力関係の構築に努めている。運営推進会議には市職員にも参加してもらい実情やケア内容を報告している。	行政には、介護保険の申請や更新時に情報交換に努めており、毎月開催される地域ケア会議にも欠かさず出席し、関係性の維持に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議・内部研修・ユニット会議などにおいて身体拘束をしないケアを確認しています。安全配慮のためホーム自動玄関のみ施錠をおこなっている。	管理者や職員は拘束や抑制の弊害や問題点を十分に理解しており、注意と見守りを徹底しながら拘束のないケアに取り組んでいる。突発的な事例もあり、なにが不足なのか検証を続け、より安全で安心できるケアになるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、内・外部研修、ユニット会議などにおいて高齢者虐待の事例、情報共有を図り確認している。日々のケアの中でも気付き等をスタッフ間で話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度の概要は理解できているが、職員全員が活用できて支援するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は施設長、管理者が説明し理解、納得を得て契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への連絡・調整窓口は管理者であるが、日常的な意見、要望はスタッフも連絡を行っている。	利用者からの意見聞き取りは、日頃の生活から受け止め、家族からの意見の聴取は来訪時を中心にしており、来所のない場合は電話にて希望等をお聞きしている。	お便りの発行は、利用者の様子を定期的にお伝えできる貴重な取り組みであるため、発行回数の頻度と紙面内容の更なる充実に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回程度、全体会議等を通して代表者に職員の意見を伝えそれを反映するよう努めている。また個々に代表者との個人面談を実施している。	申し送り時や全体・ユニット会議等に時間を設け職員と意見交換を行っており、また経営者とも随時話し合える場が設定されるため、風通しのいい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に本社に職員の意見を伝えそれを反映するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内外研修の実施・参加、資格取得などの機会を確保し、積極的に資格取得出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域行事を通じた活動から始まり、日頃から相互訪問・情報交換などに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関からの利用問合せの場合は事前面談にて概要説明と利用開始前にはホームを見学していただいている。相談・面談を重ね関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にはご本人とご家族様にホームを見学して頂いています。相談・面談・ホーム体験を重ね関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を傾聴させて頂き、その状況に応じた情報提供をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護される一方の立場に置かず、その時の状況や関係性を考慮しながら、出来る事を行って頂けるよう支援している。また、畑作業など、入居者様から教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会時や遠方の方は定期的な電話連絡などで近況をお話しさせて頂くなど、機会を利用しながら関係性を築くことを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室内にはなじみのものを持ち込んで、できるだけ今までと同じ空間であることを大切にしています。なじみの方の来訪もいつでも可能です。行きつけの飲食店、美容院に通われる方もいらっしゃる。	馴染みの関係継続では、家財や小物類の持ち込み、地域では家族の協力を得ながら墓参や初詣等を行い、行きつけの美容院や食堂の利用に同行したり、また友人や家族の来所持には落ち着いてお話ができるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の関係性の把握に努め、それぞれが孤立したり居心地の悪い状況が生じないよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を維持し必要時には直ぐに相談や支援が行えるよう入院先への面会や行事の案内送付、会う機会があれば情報交換などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を傾聴し、できることからの対応、困難な時でも希望に近付けるよう努めている。	日頃から生活に寄り添い、利用者の本意を確認把握しながら、職員全員で共有し、本人の意向に沿える支援を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時等に住み慣れた生活環境や経過などをお聞きして現状の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常のリズムを崩さぬように配慮し、本人のありのままを記録し、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケア会議を実施し介護計画を作成しています。	担当者が日頃の生活等を把握し、生活に何が必要かをケア会議にて検討する中から、利用者の個別に特化した介護プランを作成し、実践に繋げモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別担当者を設定して記録作成管理しています。ほか必要事項は情報ノート等に記入する事により職員間で情報共有できる体制を整えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人と家族のニーズにこたえられるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で行う行事に可能な限り参加し、地域間交流に努めている。又、運営推進会議を通じ、町内の方々との意見交換を行ったり、年2回の避難訓練にて消防の方々から評価や指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週定期にかかりつけ医・看護師の往診対応を確保することで適切、安全、安心な医療が受けられるように連携を図っている。	かかりつけ医の希望はそのまま継続し、必要に応じて話し合い、往診や母体病院とのオンラインでの連携等により安全な医療体制を築いている。また数名が通院リハビリに毎週通っており、体と心の改善に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師は受診時・往診時に対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や協力医療機関の医師・看護師を中心として、日常的に医療機関との連携体制を整え、入退院時などには素早く対応出来るよう信頼関係の構築に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、ホームのできることを説明し、方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、契約時に書面で説明し同意を得ている。母体病院の医師の全面的な協力により、医療、介護、家族の連携が促進され、利用者と家族の意向を不安なく実施できる体制で、終末期のケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、研修、勉強会など行い実践力を身につけていけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に避難訓練2回、災害訓練1回実施している。家族、地域の方にも協力、連携をして頂いている。	年に2回の避難訓練は消防の指導の下、実施している。自然災害の指定地区となっており、近隣建物側と避難時の対応協力を得ている。冬季の暖房機材も必要と検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの身体・精神面・生活歴などを把握し、状況に応じた声掛けや対応を行うようにしている。契約時個人情報取り扱いについて確認し、サインをもらっている。	職員は家族からの聞き取りや生活歴から利用者一人ひとりの個性や思いを理解し、誇りを尊重し人格を損ねないように、慎重で丁寧な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず話しかけ関わり、そして傾聴する事を第一にその人らしい生活は送れるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムを大切にして、個々の日常生活リズムを崩さないよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を得て衣類等を替える他、希望があれば化粧品や服の買い物、理美容室へと職員が一緒に行けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の食事は給食となったが、おやつ等の時に味見や共に調理したりしている。後片付けもともにやっている。	基本は給食体制であるが、利用者の好みや行事食等、希望に沿った内容になるよう努め、外食や出前食も取り入れながら、個々人に喜んでもらえるよう、食事の支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社と連携して習慣・身体機能に応じた食材の選定と味付け、個々の摂取方法にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床・就寝時に個々の口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンを常に記録している。個別に定期的にトイレ誘導・声かけ促しをおこなっている。	トイレでの排泄を基本とし、ベット上での排泄は極力避けて、ポータブルやリハパンも検討しつつ自然で望ましい排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルトなどの乳製品の摂取や、水分摂取、運動などを勧め、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のその日の体調や気分に加え、本人なりの理由にも耳を傾けるようにしている。その日の入浴予定順番も本人の意向に添うように努めている。	入浴は時間や曜日が自由となっており、毎日したい入浴者に喜ばれている。また両ユニット共に浴室には特殊浴槽が用意されており、介護者の負担軽減に威力を発揮し、自由な入浴の持続について基礎を支えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時に使い慣れた枕や毛布等を持ってきていただき個々の身体状況や生活習慣に合わせて、安心して就寝できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する情報は個人ファイルに保管し、服薬状況・症状の変化に関する情報を職員が共有できるよう配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の流れの中で健康状態を損なわないよう配慮し、その人に応じた事をお任せしたり一緒に取り組むよう支援している。感謝の気持ちも伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などにて参加を促し外出する機会を提供しています。個別に希望に添えるようにも努めている。	年間行事以外に、余裕を作って近所に散歩に出かけている。また半数以上の利用者が通院リハビリを週に1回利用しているため、通院の帰りを利用した買い物も頻繁に行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則当ホームで管理させて頂いております。家族様了解のもと少額の現金をお持ちの方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニット内にある電話を自由に使用して頂いております。家族等から贈り物が届いた時は、ご本人からお礼の電話を掛け、お孫さんやご家族からお手紙やはがきが届いた時は、すぐに手渡し、要望により読み上げ対応している。また電話があった時は都度電話に出られるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節やその月の行事に応じた植物や装飾を飾ったり、生活・季節感を感じて頂いている。	リビングや食堂は採光に優れており、のびのびとした空間が広がっている。季節の花も飾られており、静かに過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下端玄関前などにイス、ソファを配置して一人で落ち着ける場所も設けています。複数人数で過ごせるようにソファをホールに用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者が安心して生活できるよう馴染みのもの、家族の写真などを持ち込んで頂いている。	居室にはなじみ深い日常家具や写真等の小物類もみられ、居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が混乱しないよう職員間で情報を共有し、皆が使いやすいような環境作りを心がけている。		